和歌山県の地震

令和８年 10 月

１．和歌山県の地震活動

震央分布図　・・・・・１
概況　・・・・・１
断面図　・・・・・２
和歌山県で震度１以上を観測した地震及び震度一覧　・・・・・３
震度分布図　・・・・・３

２．地震一口メモ

昭和南海地震発生から 80 年　－ 津波 －　・・・・・６

＊ この資料に使われている震源要素（北緯・東経）は、世界測地系に基づいています。

＊ この資料の地震の震源要素は暫定値を使用しています。震度データを含めて再調査した後、修正することがあります。

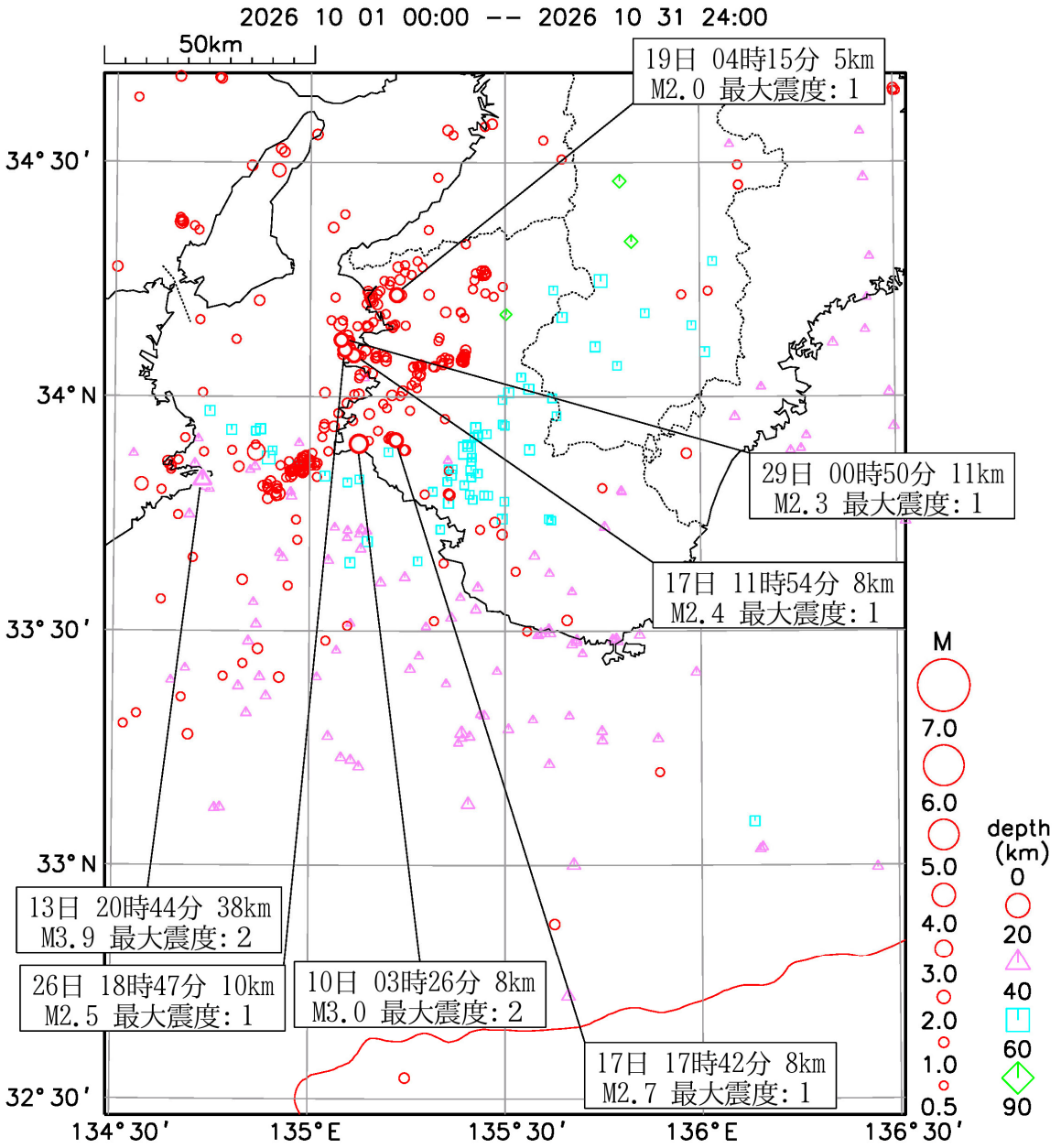
＊ 本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを使用しています。また、2016 年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022 年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、2025 年トカラ列島近海における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（平島、小宝島）、EarthScope Consortium の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

＊ この資料に掲載した地図は、国土地理院の数値地図 25000（行政界・海岸線）を使用しています。

和歌山地方気象台

１．和歌山県の地震活動

【 震央分布図 】



震央分布図は地震が発生した場所を地図上に描画したものです。

シンボルマークの大きさで地震の規模（マグニチュード）を、シンボルマークの形と色で震源の深さを表しています。また、赤線は海溝軸（南海トラフ）の位置です。

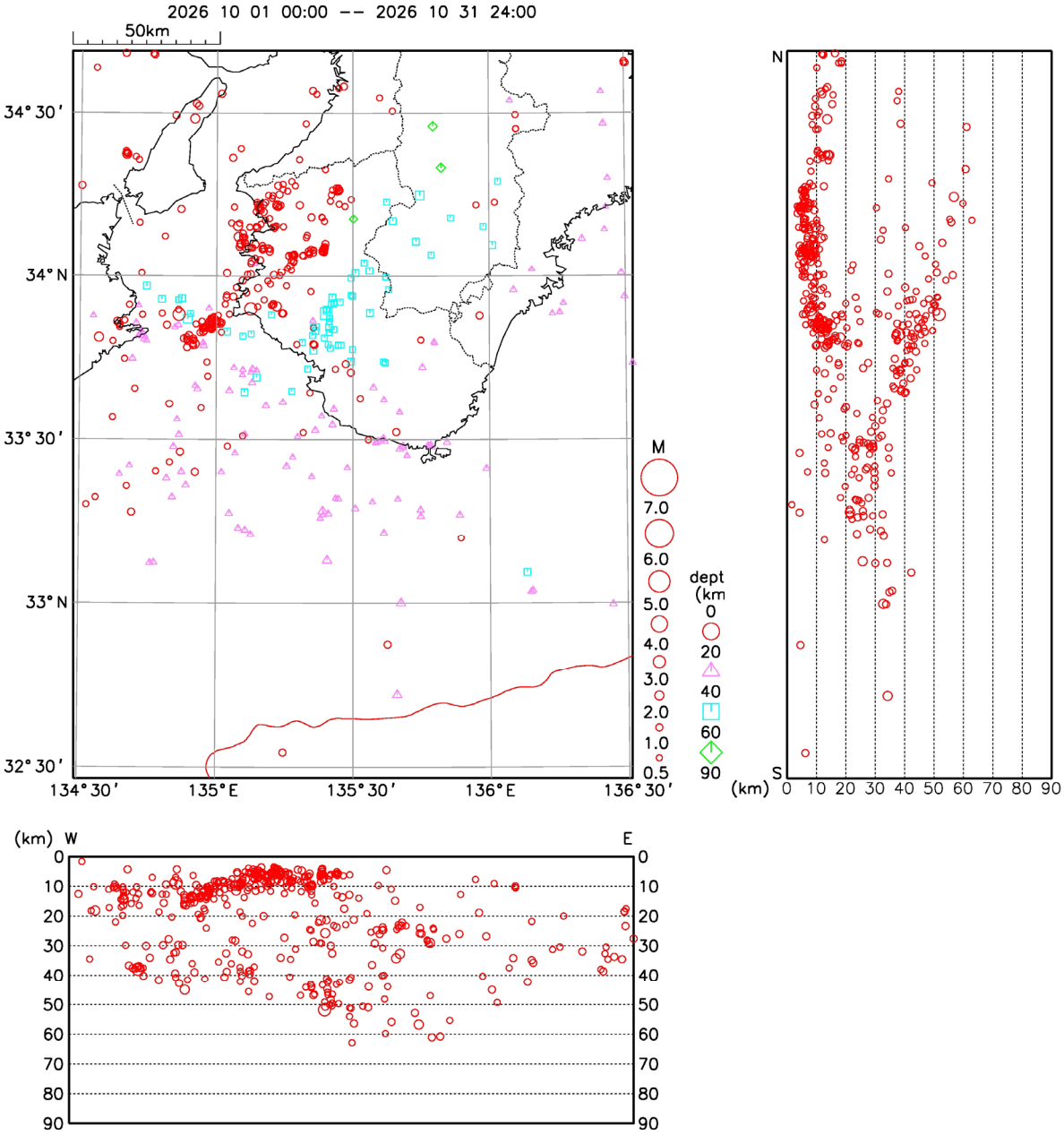
図中の吹き出しは、和歌山県内で震度１以上を観測した地震および震央分布図内で最も規模の大きな地震を示しており、日時、深さ、マグニチュード、最大震度を記載しています（最大震度は、和歌山県内とは限りません）。

【 概況 】

10 月の震央分布図内で震源決定した地震のうち、マグニチュード（M）2.0 以上の地震は 21 回（前月は 22 回）でした。そのうち最も規模の大きかった地震は、13 日 20 時 44 分　徳島県南部の地震(M3.9、深さ 38km)でした。この地震はフィリピン海プレート内部で発生しました。

10 月に和歌山県内で震度１以上を観測した地震は、７回（前月３回）でした。

【 断面図 】


2026 10 01 00:00 -- 2026 10 31 24:00
50km
34° 30′
34° N
33° 30′
33° N
32° 30′
134° 30′
135° E
135° 30′
136° E
136° 30′
M
7.0
6.0
5.0
4.0
3.0
2.0
1.0
0.5
dept (km
0
20
40
60
90
N
S
(km) 0 10 20 30 40 50 60 70 80 90
(km) W
E
0
10
20
30
40
50
60
70
80
90

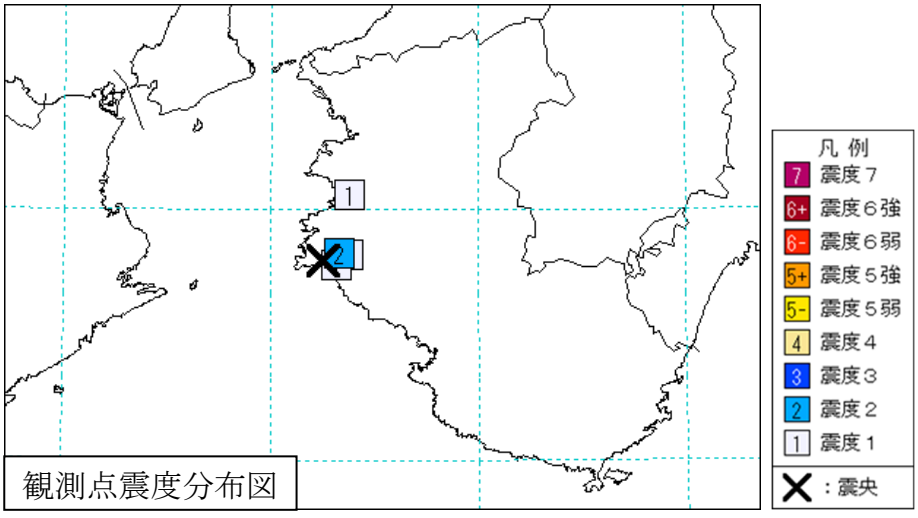
【 和歌山県で震度１以上を観測した地震及び震度一覧 】

発震時（年月日時分）　震央地名　緯度　経度　深さ　マグニチュード 各地の震度（和歌山県内のみ掲載）
2026年10月10日03時26分　紀伊水道　33° 53.9’ N　135° 07.5’ E　8km　M3.0 和歌山県　震度　2 ： 御坊市湯川＊ 震度　1 ： 御坊市薗,湯浅町青木＊,日高川町土生＊
2026年10月13日20時44分　徳島県南部　33° 49.3’ N　134° 43.5’ E　38km　M3.9 和歌山県　震度　2 ： 湯浅町青木＊ 震度　1 ： 和歌山市男野芝丁,海南市下津＊,有田市箕島,有田市初島町＊,御坊市薗,御坊市湯川＊,和歌山広川町広＊,由良町里＊,日高川町土生＊,有田川町下津野＊
2026年10月17日11時54分　和歌山県北部　34° 05.3’ N　135° 06.7’ E　8km　M2.4 和歌山県　震度　1 ： 海南市下津＊,有田市初島町＊,湯浅町青木＊
2026年10月17日17時42分　和歌山県北部　33° 54.4’ N　135° 13.2’ E　8km　M2.7 和歌山県　震度　1 ： 御坊市薗,御坊市湯川＊
2026年10月19日04時15分　和歌山県北部　34° 13.0’ N　135° 13.3’ E　5km　M2.0 和歌山県　震度　1 ： 和歌山市一番丁＊
2026年10月26日18時47分　紀伊水道　34° 06.0’ N　135° 05.3’ E　10km　M2.5 和歌山県　震度　1 ： 海南市下津＊,有田市初島町＊
2026年10月29日00時50分　紀伊水道　34° 07.2’ N　135° 04.8’ E　11km　M2.3 和歌山県　震度　1 ： 有田市初島町＊

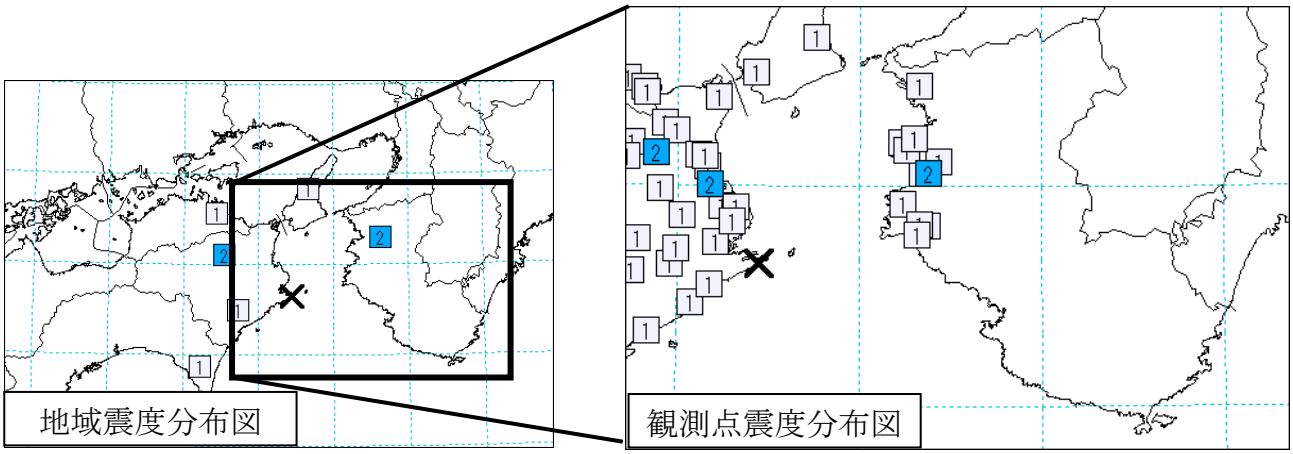
地点名の最後に＊のついている地点は、和歌山県または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

【 震度分布図 】

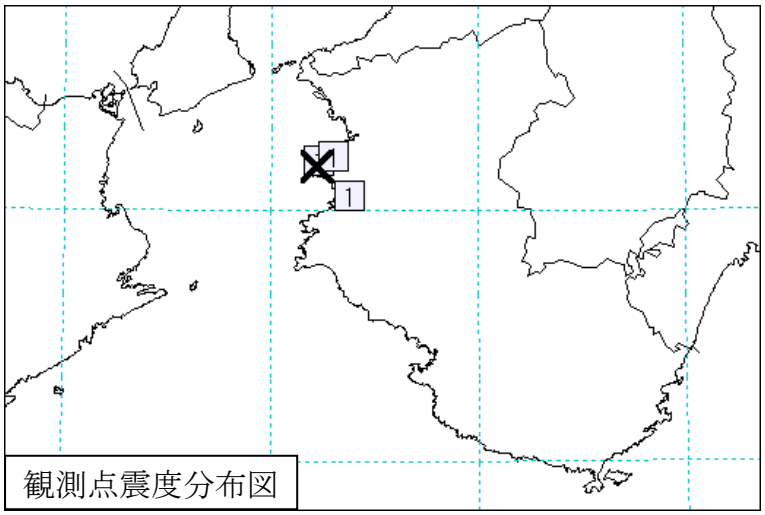
2026 年 10 月 10 日 03 時 26 分　紀伊水道の地震（深さ 8km 、M3.0）



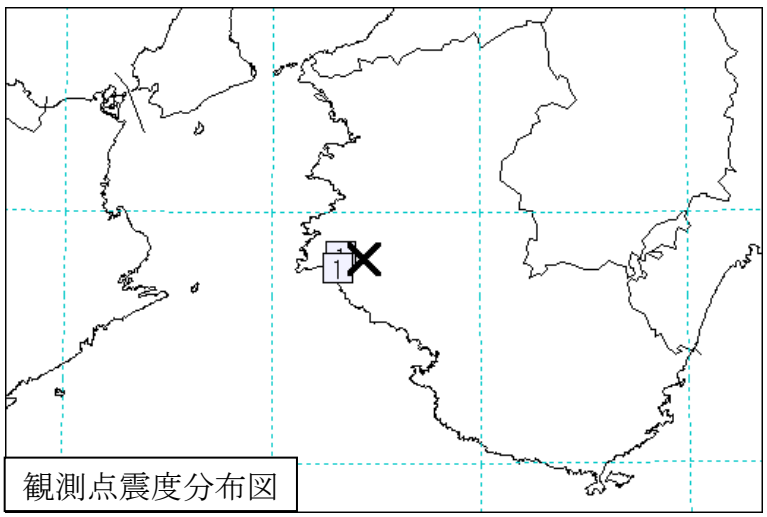
2026 年 10 月 13 日 20 時 44 分　徳島県南部の地震（深さ 38km 、M3.9）



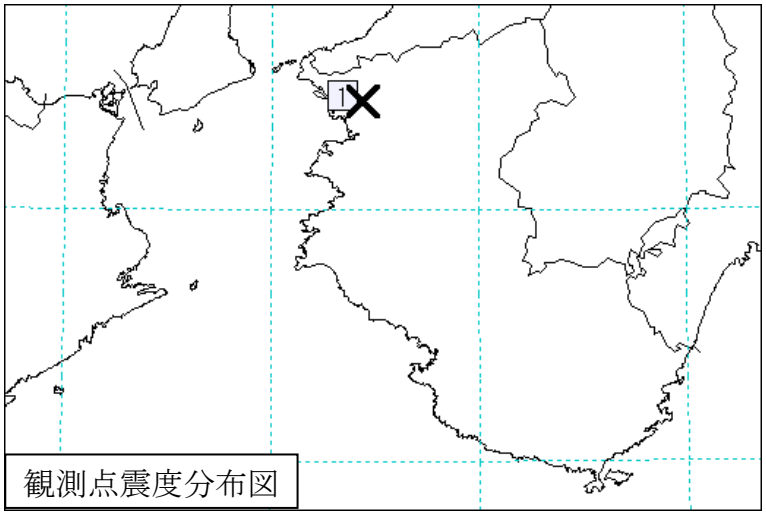
2026 年 10 月 17 日 11 時 54 分　和歌山県北部の地震（深さ 8km 、M2.4）



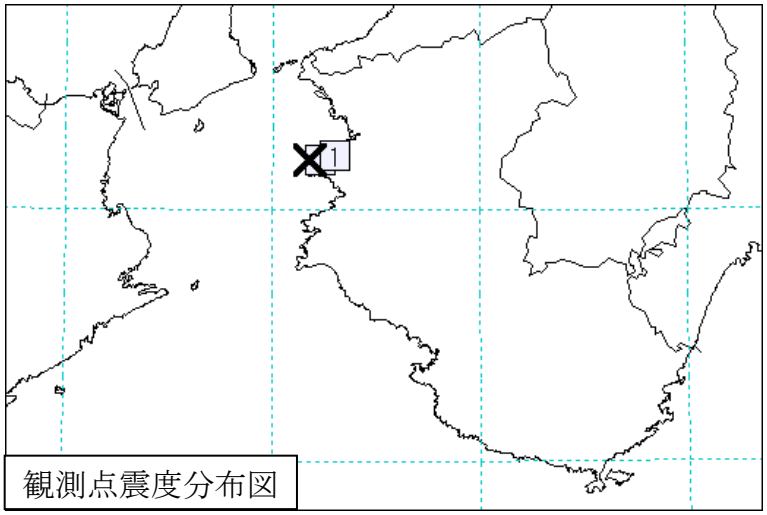
2026 年 10 月 17 日 17 時 42 分　和歌山県北部の地震（深さ 8km 、M2.7）



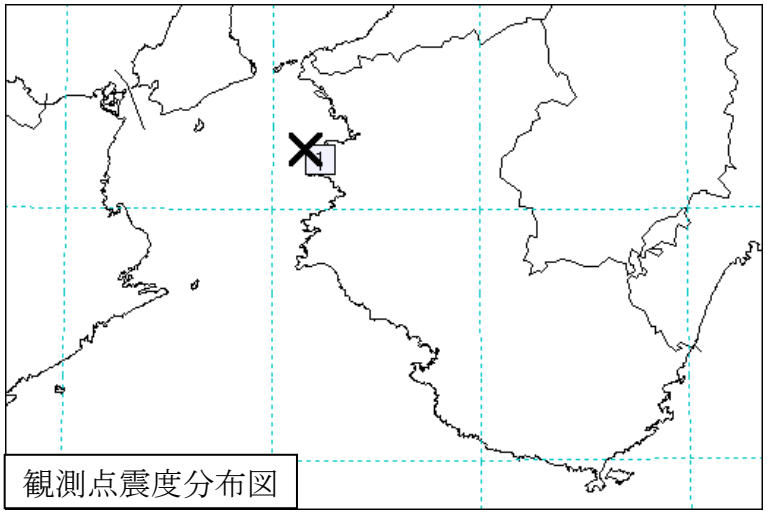
2026 年 10 月 19 日 04 時 15 分　和歌山県北部の地震（深さ 5km 、M2.0）



2026 年 10 月 26 日 18 時 47 分　紀伊水道の地震（深さ 10km 、M2.5）



2026 年 10 月 29 日 00 時 50 分　紀伊水道の地震（深さ 11km 、M2.3）



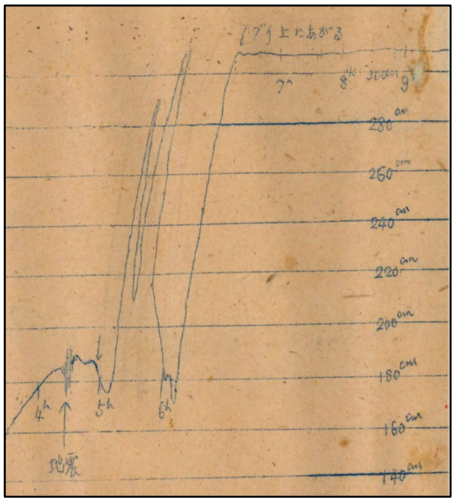
２．地震一口メモ

昭和南海地震発生から 80 年　－ 津波 －

今回は９月号に引き続き昭和南海地震により発生した津波について、欄外に示す「南海地震調査概報」等の資料を用いて振り返ります。

地震発生当時、和歌山県内では下津検潮所（現在の海南市）と串本検潮所で津波観測を行っていました。串本検潮所は津波により建屋が破壊されたため記録は残っていません。下津検潮所は第三波の途中まで記録が残っていますので、最大の津波高はわかりませんが、第一波の到達時間は記象紙に残る地震の記録から 30 分弱であることがわかります（左図）。

また、地震発生直後に職員による現地調査が行われました。これらの調査資料から現在の沿岸市町毎の最大の津波高の地点、津波の第一波の到達時刻がわかる地点等の調査結果を抜粋して右表にとりまとめました。なお、津波高の値については、基準となる海面のどのような状態からの高さなのか、地殻変動の影響等が加えられているかが不明であること、津波の第一波の到達時刻についても、まだ夜の暗い時刻の現象を住民の方々に聞き取っていることから相当な誤差を含んでいる可能性が高いことが考えられますのでそれぞれの数値の取り扱いには留意願います。



下津検潮所の検潮記録

現所在地名		資料記載の地名	津波高 (m)	第一波到達時刻－発震時 (*印は地震を感じた後からの時間、-は記録なし)
市町名	地名等（付近）			
和歌山市	和歌の浦	和歌浦	2.0	－
	加太港	加太町	1.5	－
海南市	船尾	海南市	3.5	約40分
	下津町下津	浜中村下津	2.8	－
有田市	千田	箕島町高田	1.9	約10分
湯浅町	湯浅	湯浅町	3.2	約30分
広川町	広	廣村	4.9	－
由良町	網代	由良村	3.9	約20分
日高町	比井	比井﨑村	3.3	－
美浜町	三尾	三尾村	3.8	約10分
御坊市	名屋町	御坊町	2.8	約20分
印南町	印南港	印南川西岸	5.8	－
	光川河口	光川付近	4.3	約5分
みなべ町	岩代	岩代村	4.5	約10分
田辺市	芳養松原	芳養町松原	5.3	約10分
	神子浜	神子浜	6.0	約15分
白浜町	白良浜	瀬戸鉛山村白浜	6.5	約5分
	日置	日置町	2.0	*7～8分
すさみ町	周参見	周参見町	4.0	*3～4分
	江住	江住村	2.5	－
串本町	袋港	串本町袋港	7.0	－
	串本港	串本町東側	4.0	*20分
	古座	古座町	3.0	－
那智勝浦町	浦神	浦神村	2.5	－
	紀伊勝浦港	勝浦町勝浦港	2.0	*20分
太地町	太地	太地町	2.0	－
新宮市	三輪崎	三輪崎	1.2	－
	熊野大橋	大橋付近	1.2	約15分

現在の沿岸市町毎の現地調査結果

出典・資料

昭和 21 年 12 月 21 日　南海地震調査概報　（昭和 22 年）大阪管区気象台

昭和 21 年 12 月 21 日　南海道大地震調査概報（昭和 22 年 5 月 1 日）中央気象台